平成２５・２６年度行田市教育委員会・行田市教育研究会委嘱　　研究紀要

「複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進」

～積極的な生徒指導を糸口に～

平成２６年１１月１２日（水）

行田市立長野中学校　　行田市立東小学校

行田市立北小学校　行田市立桜ヶ丘小学校

目　次

		ページ
○	あいさつ	1
Ⅰ	研究主題	
1	主題設定の理由	2
2	研究構想図	3
Ⅱ	研究の実践	
1	児童生徒をつなぐ	4
2	教師をつなぐ	6
3	学校生活をつなぐ	8
Ⅲ	今後の連携に向けて	１０

長野中学校区「小中連携教育のキーワード」

児童生徒をつなぐ	教師をつなぐ	学校生活をつなぐ
自律から自立へ	学校文化	教師間交流
小中共通ルール	自尊感情	中１ジャンプ

長野中学校　検索

長野中学校ホームページも御覧ください。

あいさつ

行田市教育委員会教育長　中村　猛

行田市立長野中学校におかれましては、平成２５・２６年度、行田市教育委員会並びに行田市教育研究会の委嘱を受け、東小学校・北小学校・桜ヶ丘小学校とともに、これまで熱心に実践研究を積み重ねてこられました。このたび、その成果をまとめ、発表する運びとなりましたことをお慶び申し上げます。

本中学校区では「中１ギャップ」を「中１ジャンプ」と捉えた発想の転換を図り、小学校から中学校へのつながりをギャップではなくステップからのジャンプと考えております。小学校から中学校へ向けて大きくジャンプするための助走がスムーズにいくような方策を児童生徒の実態を十分に踏まえた上で展開しております。

そして、９年間の学びをつなぐために、３つの部会が十分に機能し、長野中学校区の特徴を生かした小中連携教育モデルプランを創り上げてまいりました。４校がしっかりスクラムを組んだこの研究は、誠に意義深いものであり、今後の小中連携教育推進のヒントが詰まった研究でございます。

結びに、これまで精力的に研究を続けてこられました校長先生をはじめ教職員の方々に深く敬意を表しますとともに、本研究の推進に際し、温かく御指導・御助言をいただきました講師の先生方、関係の皆様に心より感謝申し上げまして、あいさつといたします。

行田市教育研究会長　　春田　盛男

少子化の進行や情報化、グローバル化の進展、地域コミュニティの弱体化や核家族化の進行等、児童生徒を取り巻く社会の状況が様々に変化し、学校教育における課題が多様化、複雑化してきている今、学校においては、各学校段階内において教育を完結するのではなく、複数の学校段階間で連携を推進することにより、教職員が異なる学校段階にわたって教育を見通し、直面する課題を解決し学校教育の質的向上を図っていくことが求められています。

長野中学校では、２年間にわたり、行田市教育委員会、行田市教育研究会の委嘱を受け、「複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進」を研究主題に据え、積極的な生徒指導を糸口に研究を深めてこられました。

具体的には、児童生徒の心からの交流を図る体験活動や学習支援、目指す児童生徒像を明確にし学校生活の決まりを共有する中学校生活ガイドブックの作成や小中連携だよりの発行など、「児童生徒をつなぐ」「学校生活をつなぐ」取組のほか、小中連携授業参観や合同研修会等を通しての「教師をつなぐ」取組など、意欲的に実践を積み重ねてこられました。こうした実践の効果は、中学校生活に関する生徒の意識調査に如実に表れており、大きな成果を上げられました。この成果が、広く市内の小中学校で生かされることを念願いたします。

結びに、柏瀬校長先生をはじめとする諸先生方、ご指導に当たられました関係の先生方、ご支援をいただきました保護者や地域の皆様に、行田市教育研究会として感謝申し上げあいさつといたします。

行田市立長野中学校長　　柏瀬　裕之

小学校と中学校の指導方法や教職員の雰囲気の違いを表す場合に、「文化が違う」という言葉をよく耳にします。同じ公教育でありながら、小学校と中学校の違いが、進学する子供たちに混乱を与えていないか、いわゆる「中１ギャップ」のように大きな段差や障害になっていないのか、本研究はここをスタートとし、スムーズな小学校から中学校の移行を目指してまいりました。

本委嘱の研究主題を「複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進」に、サブタイトルを「積極的な生徒指導を糸口に」を掲げ、３つの「つなぐ」をキーワードに３つの小学校と手を携え、研究・実践を進めてまいりました。何よりも研究を推進するにあたり、児童生徒ばかりではなく、長野中学区４校の小中学校相互の教職員の人間関係を深められたことは大きな収穫でありました。また、隣接する県立進修館高校とも連携が広がる可能性も肌で感じています。

２年間の研究において、小中で学習面、生活面はもちろんのこと、子供たちへの教職員の対応にも様々な違いがあることが分かってきました。しかし、お互いが違いを違いとして認めながらよさを引き出して行くことの大切さも経験いたしました。研究内容は、まだまだ糸のような細くて頼りないものですが、今日までの成果を軸に今後の「連携」の在り方へとつなげていきたいと考えています。

結びに、本研究に当たりご指導くださいました関係の先生方をはじめ、行田市教育委員会の皆様方に深く感謝を申し上げあいさつといたします。

Ⅰ　研究主題

「複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進」
～積極的な生徒指導を糸口に～

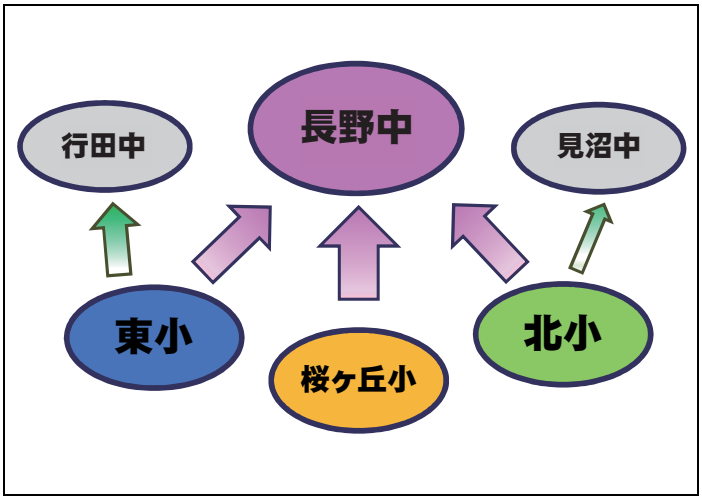
１　主題設定の理由

本校は、数年前まで学校の正常な機能が果たせない、いわゆる「荒れ」の状態にあった。平成２０年度から２１年度には暴力行為が多発し、２１年度から２３年度にかけては不登校が急増した。そのような中、本校は２２～２４年度に県の生徒指導研究推進モデル校となり生徒指導対応教諭が加配された。生徒指導対応教諭の役割の一つに「生徒指導上の諸問題を解決するため小中連携を図る取組」があり、学区内の小学校に出向いた授業参観や情報交換、６年生への中学校ガイダンス等も行った。２４年度からは学校間の「小中交流」が始まり、今でも継続している小学校に中学生を派遣する「サマースクール」や「陸上部のコーチ」はこのときから始まった。

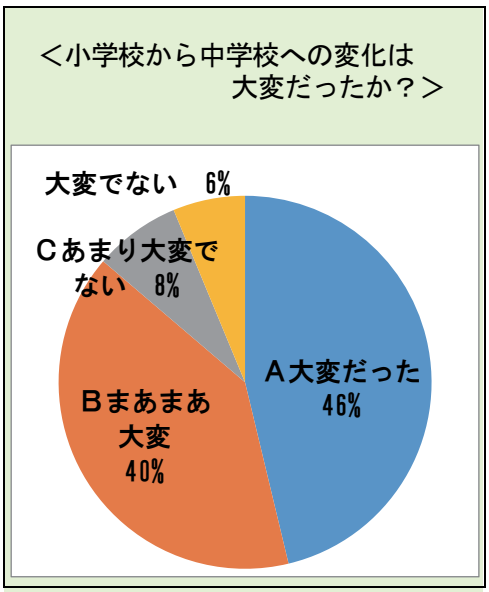
しかしながら、「小中交流」を進めていく中でいくつかの困難課題も生じてきた。

- ○　４つの学校で行事の時期（忙しい時期）がずれているので、時間の確保が大変
- ○　同じ目的・意識をもって取り組むことが難しい
- ○　業務が多く、時間的なゆとりがない
- ○　連絡を取り合いながらの日程調整が困難
- ○　何から手をつけたら良いのか分からない
- ○　加配教員がいなくなったら誰が中心となって動くのか

そして最大の困難課題は、学校が１校対１校の関係ではないということである。本校の学区には３つの小学校があり、そのうちの２校は他の中学校へも進学している。本校も含め、それぞれの学校は地域性や学校ごとに特色（違い）がある。学校文化にも違いがある。複数小学校とどのように連携を進めるかが大きな壁であった。



行田市教育委員会並びに行田市教育研究会から「小中連携教育」の研究委嘱を受けたとき、私たちはこの一番大きな壁にどのように向かっていったら良いかを研究テーマ（「複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進」）に据えることにした。また、本校の重点目標の１つである「積極的な生徒指導による問題行動の未然防止」を各小学校と共に取り組んでいきたいという思いから、サブテーマを「～積極的な生徒指導を糸口に～」とした。



平成２５年度新入生に年度当初に取ったアンケート（左図参照）によると、９割近くの生徒は「小学校から中学校への変化は大変だった」と回答している。学校間の文化の違い、指導方法や教職員の雰囲気の違いがあるのは当然のことかもしれない。しかしそれが、同じ地域から進学してくる子供たちにとっていわゆる「中１ギャップ」のように大きな段差や障害になっているとしたら、その障害を私たちの知恵と努力で、少しでも滑らかにすることは大切なことである。そのためには、小学校段階で中学校生活を知ること、中学校で配慮できる環境を作ることは極めて大事なことと考え、本研究・実践を進めていった。

２　研究構想図

＜小中連携の視点＞
・中１ギャップの軽減
・健全育成・学力向上
・９年間を見通した教育活動の推進

＜これまでの小中連携の実績＞
・小学校サマースクール
・陸上部の小学生指導
・情報交換会

＜地域の特徴＞
・東小、北小、桜ヶ丘小の３小学校から入学
・県立進修館高校が隣接
・市街地と農村部が混在

○中学校入学前の児童の不安
・学習への不安
・上級生への不安
・友人関係への不安
・部活動への不安
・きまりへの不安

研究主題
複数学校を校区に持った中学校の小中連携教育の推進
～積極的な生徒指導を糸口に～

○教師が感じている中１ギャップ
・生活（生徒）指導
・授業規律・集団行動
・学級担任制→教科担任制
・学習や技能の定着度合い

４校で目指す児童生徒像
「自律から自立へ」互いに高め合う児童生徒

研究組織図
校長・教頭
４校校長会
研究推進委員会
４校小中連携推進会議
全体研究会

児童生徒をつなぐ部会
○小中連携あいさつ運動
○中学校生活ガイドブックの作成と配布
○小学校２年生のまちたんけん（中学校探検）
○小学校サマースクールへの中学生の参加
○連合運動会へ向けて陸上部の小学生指導
○中学校音楽会の見学

教師をつなぐ部会
○小中連携授業参観（小→中，中→小）
○４校合同教員研修会
・図工美術の実技講習会
・体育実技講習会（スポーツ交流）
○救急救命講習会（４校養護教諭）
○年度はじめ・年度末情報交換会
○小中連携だよりの発行

学校生活をつなぐ部会
○目指す児童生徒像の策定
○学校生活のきまりの共有
○中学校１年生のアンケート調査
○小学校へ出向いての中学校ガイダンス
○新入生体験授業・部活動見学

Ⅱ　研究の実践

１　児童生徒をつなぐ

「小学校と中学校の児童生徒の交流を図る」

「先輩・お兄さん・お姉さん」としての活動や交流

⬇

中学生の自己有用感・自尊感情・日常の活動や取組の向上

＜まちたんけん＞

～小学生をお兄さん・お姉さんが案内～

・桜ヶ丘小２年生が生活科「まちたんけん」の一環として、中学校を訪れた。
・中学生が小学生たちに施設を案内した。
・小学生たちがお礼として「ドラえもんダンス」を披露した。

＜サマースクールボランティア＞

～「教わる側」から「教える立場」への経験～

・夏休みに実施。平成２６年度は、５７人が参加。
・中学２年生が、３小学校のサマースクールにボランティアとしてお手伝いに行く。
・小学１年生から６年生のクラスに分かれて、丸つけや学習の補助を行う。

＜吹奏楽部合同演奏＞

～小学校・中学校・高校の交流～

・桜ヶ丘小金管クラブ、長野中吹奏楽部、進修館高校吹奏楽部の合同演奏。
・進修館高校の定期演奏会（７月）や文化祭（華蓮祭・９月）において「夏色」「勇気１００％」等を披露した。

＜ダンス交流会＞
～「まちたんけん」から始まった小学生と中学生の笑顔の交流～

・「まちたんけん」で交流した桜ヶ丘小２年生を中学２年生が訪問した。
・「ドラえもんダンス」のお礼に、小学生たちにダンスを教えて一緒に踊った。

＜中学校生活ガイドブック＞
～長中生活を先取り～

・小学生に長中のことを知ってもらえるように、オリジナルの「長野中学校生活ガイドブック」を作成した。
・「長中生の一日」で教科の授業、制服やジャージを紹介。
・「長中ＭＡＰ」で校舎の案内図や各部活動について分かるように工夫した。

＜あいさつ運動＞
～小中であいさつの活性化～

・３小学校に中学生（生徒会、部長、学級委員）が、あいさつ運動に行く。
・２日間連続で学期に１回程度実施。

＜連合運動会練習への参加＞
～陸上部が小学生に指導～

・小学校の連合運動会の練習に陸上部が参加。（９月）
・小学生の練習をサポート。

＜児童生徒をつなぐ部会での取組＞・まちたんけん　・サマースクールボランティア　・連合運動会練習への参加　・あいさつ運動　・卒業期の合同歌練習　・中学校生活ガイドブック　・特別支援学級カレーパーティー　・吹奏楽合同演奏（小中高）

２　教師をつなぐ

「小学校と中学校の教師の交流を図る」

児童生徒に関わる教員同士の交流・連携・情報交換

⬇

連携の基盤作り・スムーズな協力

＜小中連携授業参観＞　～小中の両サイドからの関わり～

・６月に実施（入学して２ヶ月）。
・小学校の先生による授業参観（元担任の先生が中学１年生の授業を見る）
・授業の様子を見た後、小学校元担任と１学年職員とで生徒に関わる情報交換会を行う。
・生徒に対して小中の教職員がお互いに知っている状態で話ができる。

＜４校教員合同研修会＞
～「小中連携」を話し合う～

・夏休み（8月）に実施。（H25）
・「小中連携」について、先進の取組である八潮市に学ぶ。
・４校の教員がグループとなって「小中連携」「小と中の違い」等について話し合った。

＜４校合同体育実技講習会＞
～小中の教員がスポーツ交流～

・夏休み（８月）に実施。（Ｈ２６）
・ソフトバレーボールの実技講習と小中混合チームに分かれて親善試合を行った。

＜図工美術実技講習会（モダンテクニック講座）＞
～教科を通した小と中の教員交流～

・３小学校の教員が、中学校で図工美術の実技講習会を行った。
・中学校の美術教員と美術部員がモダンテクニックの技法を実演し、グループで技法を活用して作品を仕上げた。

＜小中連携通信＞
～情報の発信と共有～

・４校の教員に「小中連携」の情報を発信する。
・連携推進会議で決まったことや連携の取組や予定についての情報を共有する。

4校小中連携通信（長野中学校区）

～東小学校・北小学校・桜ヶ丘小学校・長野中学校～

第１号　　平成２６年７月７日発行

【６月の小中連携あいさつ運動】

６／１７（火）１８（水）に、小中連携あいさつ運動を実施しました。昨年度より、生徒会本部役員を中心に各部活動の部長や各クラスの学級委員が小学校であいさつ運動をしています。今回は、生徒会と学級委員合わせて４２名が、東・北・桜ヶ丘の３小学校に分かれて実施しました。
緑と赤の「あいさつ運動」「長野中学校」と書かれたのぼりを持ち、小学生と中学生が一緒になって「おはようございます」のあいさつを元気に交わしていました。今後もさらに継続させ、それぞれの学校でのあいさつの活性化に つなげていきたいと考えています。

＜あいさつ運動に参加した生徒の感想＞

私があいさつ運動に参加して一番うれしかったことは、自分のあいさつに小学生が「おはようございます」と元気に返してくれたことです。

大きな声であいさつをすると、小学生は笑顔になってくれたのでうれしかったです。小学生との交流が少し深まったように感じました。

＜救急救命講習＞
～小学校養護教諭を招いて～

・１２月に実施。
・中学２年生が救急救命講習を全員受講。
・講師に日本赤十字社、３小学校の養護教諭を招いて指導を受ける。

＜教師をつなぐ部会での取組＞
・小中連携授業参観　・４校合同研修会　・４校合同体育実技講習会
・図工美術実技講習会　・救急救命講習　・情報交換会

３　学校生活をつなぐ

「小学校と中学校の学校生活の違いを踏まえた環境を整備する」

中学校を知る・小学校からの準備

⬇

小中の段差を小さくする・円滑な接続

＜中学校ガイダンス＞　～「中学校への理解」を深める～

- １～２月に実施。（新入生説明会の前）
- 中学校の教員が小学校に行って、「小学校と中学校の違い」について授業を行う。
- 中学校の教員が話をしたり質問に答えたりすることで、不安を軽減するとともに中学生としての心構えをつくる。

中学校は・・・

大人になるための学校

①集団生活のルールを守る

②力をつける(学力･体力･生活)

③みんなでがんばる(協力性)

大人になるための中学校

みんなで
約束を守って
成長する

だから「楽しい」「充実感」
一緒に成長していきましょう！

＜長野中学校区　学校生活のルール＞　～９年間共通の基盤～

・長野中学校区の小中学校で「児童生徒に身につけさせたい共通のルール」を「学校生活の面」「授業面」で設定。

・「集団生活の規律」を当たり前にできるように指導を行う。

学校生活では

1　先生や友達に気持ちのよいあいさつをします
2　靴や上履きのかかとを踏まず、しっかり履きます
3　先生や先輩、友達に正しい言葉で話します（中学校）
　　先生や目上の人、友達に正しい言葉で話します（小学校）
4　掃除では、床をピカピカに磨きます

授業では

1　チャイム着席を守ります
2　背すじをのばして、大きな声であいさつをします
3　両ひざを机の下に入れ、前を向いて話を聞きます
4　名前を呼ばれたら、「はい」と返事をします

＜中学校調べ「もうすぐ中学生」＞
～中学生にインタビュー～

・２月に実施。（東小学校）
・中学校生活について６年生が調べて小中の違いを知る。
・中学生や中学校教員がゲストティーチャーとして参加。

＜中学生からのアドバイス＞
～体験を後輩に伝える～

・中学１年生から小学６年生に向けて「中学校生活」のアドバイスを送る。
・３小学校の６年生全員に配布。

【６年生に自分の経験から中学校生活に関してアドバイスをするとしたら、どんなことがアドバイスできますか？ 】
～長野中学校1年生162人に聞いたアドバイス～

＜勉強・授業について＞
・小学校と違ってテストが単元ごとではなく、中間テスト・期末テストと範囲が広くなるのでちゃんと勉強しておいた方がいい。
・先生の話をしっかり聞きましょう。
・１日１０分でもいいから勉強すること。
・勉強と部活動を両立させましょう。
・ワーク（問題集）などは、提出日にきちんと出しましょう。
・６年生の復習をしておくと、必ず役に立ちます。
・テストの時期に限らず、毎日自主学習をした方がいいと思います。
・授業が難しくてついていけないときがあったら、友達や先生にききましょう。

＜部活動について＞
・部活動は、休まず参加しよう。
・「一人じゃ嫌だから」と友達と一緒の部活に入らず、自分が３年間真剣に取り組みたい部活に入った方がいいと思います。部活の中で新しく友達ができたり、知らなかった子とも仲良くなれたり、先輩とも仲良くなれるので一人で選んだ部活に入っても大丈夫です。
・部活動が多くて大変だけど、とても楽しいです。

＜友達関係について＞
・最初は不安だらけだけど、クラスや友だちはすぐに仲良くなれるし、部活動でも先輩は優しくていい先輩です。
・友達はすぐにできるので心配しないでください。
・いろいろな友達と会えて毎日が楽しいです。

＜新入生体験授業・保護者説明会＞ ～「中学校を体験する」～

・２月に実施。３小学校の６年生が、クラスごとに中学校で授業を受ける。
・北小３クラス（理科・音楽・数学）桜ヶ丘小２クラス（美術・国語）
東小２クラス（英語・社会）
・体験授業の後は、部活動見学会を実施。

＜学校生活をつなぐ部会での取組＞
・中学校ガイダンス　・長野中学校区学校生活のルール作り　・中学校調べ
・アンケート調査（１年生・教師）　・中学生からのアドバイス

Ⅲ　今後の連携に向けて

～「中１ギャップ」から「中１ジャンプ」へ～

本研究・実践では、次の３つに重点を置き、一定の成果を上げることができた。

○小学校と中学校の教職員の交流を図る

授業参観、情報交換会の他に合同研修会を実施した。今年度は座学の研修会だけではなく合同の実技講習会を行い、今までなかった形での教職員の交流が図れた。

○小学校と中学校の違いを踏まえた環境を整備する

４校で目指す児童生徒像を共有し、４校共通の学校生活のルールを作りあげることができた。また、中学校生活ガイドブックを作成し、小学校に配布することができた。

○小学生と中学生の交流を通して互いを高め合う

小学生の中学校進学に対する不安感の軽減だけではなく、中学生が小学生との触れ合いを通じて自尊感情を高めることができた。

本研究においては、４校の小中連携担当者の存在が大きかった。担当者を校務分掌に位置付け、担当者が定期的に集まって会議を行うことによって研究推進が図れた。しかし、「時間の確保」は最後まで難題であった。担当者会議や交流会の日程・時間調整、児童生徒が交流する際の移動時間等、「時間」はいつも難敵であった。今後は年度末から「小中合同カレンダー」を作成し、会議や交流の日程を調整しやすくする工夫も考えていきたい。

また、体制の整備とともに、教職員一人一人が小中連携を進めていこうとする意識は極めて大切である。「一人でできること」「学年でできること」「学校でできること」を出し合いながら、児童生徒の「学び」と「育ち」を見据え、継続して取り組んでいくことが必要である。

今後とも４校の知恵と実践で、「中１ギャップ」ではなく「中１ジャンプ」へとつなげていく連携を深めていきたい。続けることが最大の課題である。

研究推進にあたり御指導をいただいた先生方

埼玉県教育局東部教育事務所長	中村　敏明　先生
埼玉県教育局東部教育事務所指導主事	井上　弘江　先生
八潮市教育委員会教育長	石黒　　貢　先生
八潮市教育委員会指導課長	坪井　俊治　先生
八潮市教育委員会指導課主任指導主事	大松　武晴　先生
行田市教育委員会教育長	中村　　猛　先生
行田市教育委員会学校教育部長	小河原勝美　先生
行田市教育委員会学校教育部次長兼学校教育課長	篠田　豊和　先生
行田市教育委員会学校教育部副参事	芙蓉　良明　先生
行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹	櫻井真佐美　先生
行田市立教育研修センター所長	松井　正俊　先生